

臨床研究「認知症診断における言語検査の有用性の検証についての研究」について

筑波大学附属病院精神神経科では、標題の臨床研究を実施しております。

本研究の概要は以下のとおりです。

① 研究の目的

近年、認知症は記憶障害のみならず様々な認知機能の障害を呈することが知られています。その中でも言語障害を前景とした患者さんがいることが知られ、そのために原発性進行性失語症との疾患概念が提唱され、2011年には国際診断基準も作成されました。原発性進行性失語症の多くはアルツハイマー病や前頭側頭葉変性症の患者さんです。そのためこの疾患概念は、記憶障害が出現する前に言語障害で発症した認知症の早期診断、早期治療に有用なものであるが、まだ十分な報告量がなく、診断基準の不備も指摘されています。

本研究では、上述の患者さんの言語障害の下位検査項目を詳細に検討することによって、より有用な診断項目や検査項目を検討し、患者さんの早期診断、早期治療に役立つ事を目的としています。

② 研究対象者

2013年4月1日から2024年3月31日までに当院精神神経科を受診された50才以上の患者さんで、頭部MRIもしくは脳血流SPECT検査を施行された方々のうち、アルツハイマー病や前頭側頭葉変性症と診断された方々の言語検査を解析対象とします。

③ 研究期間：

倫理審査委員会承認後～2025年3月31日まで

④ 研究の方法

言語機能と臨床経過、脳画像結果を比較検討して、臨床診断の妥当性や、診断に有用な項目を検索します。

⑤ 試料・情報の項目（具体的に記載すること）

年齢、性別、認知機能検査(Mini-Mental State Examination; MMSE)、レーブン色彩マトリックス検査(Raven's Coloured Progressive Matrices: RCPM)、前頭葉機能検査(Frontal assessment battery; FAB)、頭部MRI、脳血流SPECT画像、言語検査(標準失語症検査、失語症語彙検査、SALA失語症検査)

⑥ 研究機関名および研究責任者名

筑波大学附属病院精神神経科教授・新井哲明

⑦ 本研究への参加を希望されない場合

患者さんやご家族（ご遺族）が本研究への参加を希望されず、試料・情報の利用又は提供の停止を希望される場合は、下記の問い合わせ先へご連絡ください。すでに研究結果が公表されている場合など、ご希望に添えない場合もございます。

⑧ 問い合わせ連絡先

筑波大学附属病院：〒305-8576 茨城県つくば市天久保 2-1-1

所属・担当者名：筑波大学医学医療系精神医学 精神科ステーション 電話：029-853-3182 平日
9:00-17:00 担当者 教授 新井 哲明

029-853-3525(筑波大学附属病院防災センター、上記以外の時間帯では精神神経科の医師を呼び
出してください)